

令和4年度 自己点検・自己評価
ユマニテク看護助産専門学校 看護学科・助産専攻科

評価基準：当てはまる 4点、ほぼ当てはまる 3点、やや当てはまる 2点、当てはまらない 1点

| 大項目 | 評価対象項目 | | 小評価 | 評価 |
|----------------------------|-------------------------------------|--|-----|-----|
| I 教育 理念 ・ 目的 | 1 | 教育理念・目的は法的整合性と独自性があるか。 | 4 | 3.8 |
| | 2 | 教育理念・目的を周知しているか。 | 4 | |
| | 3 | 専門職についての考え方を示しているか。 | 4 | |
| | 4 | 看護・助産教育についての考え方を示しているか。 | 4 | |
| | 5 | 教育観・学生観を示しているか。 | 4 | |
| | 6 | 教育理念・目的を教職員・学生が認識をし、達成出来ているか。 | 3 | |
| | 総 評 | 前年度と同様に高評価を維持できている。教育理念については、高校生やその保護者、所属校の進路担当者に対し、継続的に学校案内やガイダンスで説明すると同時にホームページにも明示している。説明会・相談会・高校訪問・オープンキャンパスなどの機会を活用し明示している。入学生や在校生に対しては、教育理念・目的に加えて医療現場における職業倫理などについても年度初めに周知徹底している。今年度は刷新したカリキュラムを稼働したので今後のさらなる教育活動の充実につなげていきたい。 | | |
| II 教育 目標 | 7 | 教育目標は、理念・目的と一貫性があるか。 | 4 | 3.5 |
| | 8 | 教育目標の実現可能性はあるか。 | 4 | |
| | 9 | 教育目標は到達しているか。 | 3 | |
| | 10 | 教育目標に継続教育が反映されているか。 | 3 | |
| | 総 評 | 教育目標は理念・目的と一貫性があり、実現可能なものである。しかし教育目標はまだ十分には達しておらず更なる努力が必要である。カリキュラム改定により新しく見直した教育目標が継続教育に反映できるようさらに尽力していきたい。 | | |
| III 教育 課程 ・ 経営 | 11 | 教育課程は看護学の内容・求める学習の到達及び学生の成長発達について明確な考え方と根拠をもって編成されているか。 | 4 | 3.8 |
| | 12 | 教育理念・目的・目標にあった科目設定をしているか。 | 4 | |
| | 13 | 教育課程・授業・評価に一貫性があるか。 | 4 | |
| | 14 | 科目設定に学校特色を盛り込んでいるか。 | 4 | |
| | 15 | 科目設定に社会のニーズを考慮しているか。 | 3 | |
| | 16 | 授業計画に基づいて授業を実施しているか。 | 4 | |
| | 17 | 指定規則に合致した単位・時間設定か。 | 4 | |
| | 18 | 単位履修の方法とその制約について、教員学生双方がわかるように明示してあるか。 | 4 | |
| | 19 | 大卒の入学生に単位の認定を行っているか。 | 4 | |
| | 20 | 評価の方法は試験・出席・学習状況・レポートにより行われているか。 | 4 | |
| | 21 | 単位認定のための評価基準と方法を明示しているか。 | 4 | |
| | 22 | 教員が自己研鑽出来る環境を整えているか。 | 4 | |
| | 23 | 教員が専門性を発揮出来るように、教員の担当科目と時間数を配分しているか。 | 4 | |
| | 24 | 科目を担当する講師は、その分野を教授するのにふさわしい者が担当しているか。 | 4 | |
| 25 | 実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保しているか。 | 4 | | |
| 26 | 実習施設は学生の看護実践を支援する体制を整えているか。 | 3 | | |
| 27 | 実習指導者は実習要項をもとに、実習指導案を立案・実施・計画しているか。 | 3 | | |
| 28 | 実習指導者と教員は役割分担を明確にして指導しているか。 | 4 | | |
| 29 | 学生からケアを受ける対象者に説明を行い同意を得ているか。 | 4 | | |
| 30 | 実習中の不慮の事故等に関しての、保険等の対策を取っているか。 | 4 | | |

| 大項目 | 評価対象項目 | 小評価 | 評価 | |
|------------------|--|--|----|-----|
| III 教育課程・経営 | <p>教育課程・理念・目的・目標は整備され学生にも周知しており、今年度も学生によるカリキュラム評価を実施することができた。カリキュラム改定では、さらに現代の学生に合わせた教育課程編成を行い、社会のニーズを考慮した科目設定をカリキュラム改定で行った。今後もさらなる教育過程の充実に向けて取り組んでいきたい。</p> <p>複数学科を有する当法人の特性を踏まえて専門職を目指す学生達が1つのグループとなりディスカッションを行い互いの専門性を尊重し、チーム医療協働を学んでいる。</p> <p>今年度もコロナ禍の影響で臨床実習には翻弄した状況ではあったが、病院協力のもと実習調整者が臨床と協議調整を行い感染に留意しながら臨床に出向くことができた。次年度も施設担当者と実習目的・目標を共通認識するために協議を持ち、学生の学びを充実させるため対応していく。そのためには実習指導者と教員は協議のもと役割分担し、学生指導ができているので継続していく。総合保障制度WILLに加入しており学生を守るシステムが稼働している。</p> | | | |
| IV 教授・学習・評価過程 | 31 | 授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生の学習成果を考慮して科目が配置されているか。 | 4 | 3.5 |
| | 32 | 授業内容は精選され学生のレディネスに沿って構成されているか。 | 4 | |
| | 33 | 授業形態（講義・演習・実習）は、授業内容に応じて選択されているか。 | 4 | |
| | 34 | 授業展開に用いる指導技術についての考え方は、学生が主体的に考え学習する事が可能な授業形態が導入されているか。 | 3 | |
| | 35 | 学生に対して効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしているか。 | 3 | |
| | 36 | 評価計画を立案・実施しているか。 | 3 | |
| | 37 | 評価結果に基づき、実際に授業を改善しているか。 | 3 | |
| | 38 | 学生に単位認定のための評価基準と方法を公表しているか。 | 4 | |
| | 39 | 単位認定の評価には公平性が保たれているか。 | 4 | |
| | | <p>授業内容や形態に関しては、系統立てて構成されており教員・非常勤講師とシラバスに合わせながら実践的な授業を目指している。全体の授業ではグループワークを取り入れるなど主体性を考える力を高めている。</p> <p>年度末には学年会議や単位認定会議を開催し次年度に繋げることができる。</p> <p>また授業評価や実習評価を行うシステムが稼働しており、教員・非常勤講師・学生などの意見を反映した教育内容を取り入れている、次年度に向けてさらなる教育質向上に繋げていきたい。</p> | | |
| V 経営・管理過程 | 40 | 養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示しているか。 | 4 | 3.7 |
| | 41 | 養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示しているか。 | 4 | |
| | 42 | 教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解しているか。 | 4 | |
| | 43 | 養成所の組織体制は、教育理念・教育目的を達成するための権限や役割機能が明確になっているか。 | 4 | |
| | 44 | 意思決定システムが明確になっているか。 | 4 | |
| | 45 | 意思決定システムは、組織構成員の意思を反映でき、決定事項が周知出来るように整えられているか。 | 4 | |
| | 46 | 教職員の資質の向上については教育理念・教育目的達成との整合性があるか。 | 4 | |
| | 47 | 財政基盤を確保することについての考え方が明確であるか。 | 4 | |
| | 48 | 教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解しているか。 | 4 | |
| | 49 | 管理者の考え方に基づいて、設備整備計画を立案し、実施しているか。 | 4 | |
| | 50 | 専門教育に必要な施設設備を計画的に整備しているか。 | 4 | |
| | 51 | 学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備しているか。 | 3 | |
| | 52 | 火災及び自然災害に対する体制を整えているか。 | 3 | |
| | 53 | 学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えているか。 | 3 | |
| 54 | 支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けているか。 | 4 | | |

| 大項目 | 評価対象項目 | 小評価 | 評価 | |
|--|--|--------|----|--|
| V 経営・ 管理過程 | 55 学生の安全の確保、個人情報の保護のための体制が整えられているか。 | 4 | | |
| | 56 教育・学習活動に関する情報提供を保護者に行っているか。 | 3 | | |
| | 57 保護者への情報提供は保護者から協力・支援を得ることに繋がっているか。 | 3 | | |
| | 58 養成機関としての存在を十分にアピールする広報活動を適切に行っているか。 | 4 | | |
| | 59 養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中長期計画、短期計画、年間計画を立案しているか。 | 4 | | |
| | 60 運営計画の実施・評価は将来構想との整合性をもっているか。 | 4 | | |
| | 61 自己点検・自己評価の意味と目的を理解しているか。 | 4 | | |
| | 62 自己点検・自己評価体制を整え運営しているか。 | 4 | | |
| | 63 自己点検・自己評価は養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能しているか。 | 3 | | |
| | 64 自己点検・自己評価は養成所の教育理念・目的・目標の維持、改善につながるように機能しているか。 | 4 | | |
| 65 自己点検・自己評価の結果を公表しているか。 | 4 | 総 評 | | |
| 養成所の管理者は運営協議会や教務会議の場で経理・運営等について公表、明示しており、教職員は職務分掌や学則を理解している。今後も理解に努めていく。意志決定システムは就業規則に掲載され明確であり、決定事項が周知できるように整えられている。教職員の資質の向上については、目標管理シートの作成と評価・面談により教育理念・教育目的達成との整合性が保てるように管理されている。財政基盤の成り立ちは学園運営協議会で内容が公表され教務会議で周知されている。施設設備は定期点検により修繕整備され運営管理されている。災害管理としては、学生分の防災グッズを整理し備蓄をしている。学生生活の支援体制は整えられており、それを活用しやすいように学生に説明・周知されている。個人情報保護のためにPCウイルスソフトをインストールしているが、USBの使用など高い安全性は保てていない状況はある。更なる個人情報保護の徹底をする必要がある。情報提供は遠隔保護者会を通じ速やかに行われており、保護者からの喜びの声が聞かれ、協力・支援を得ることに繋がっている。人口動態にける受験者数を分析し、学校運営の中長期計画、短期計画、年間計画が立案され実践している。また、年間を通して計画的に高校訪問を行い、進路担当者と連携をとり広報活動がなされている。学校運営は法人内で審議計画され、将来構想と整合性が保たれるように運用されている。自己点検・自己評価は7年目となり、話し合いは行われているが、現在、新カリキュラムが稼働し始めたため、カリキュラム運営、授業実践へのフィードバックはまだ完全とはいえない。自己点検・自己評価は、ホームページで公開している。 | | | | |
| 66 教育理念・目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べているか。 | 4 | | 4 | |
| 67 入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性および教育効果の視点から分析し、検証しているか。 | 4 | | | |
| 68 入学希望者への開拓への取り組みはなされているか。 | 4 | | | |
| 総 評 | 学校のホームページ、募集要項に学校の理念や求める学生像を明示し、選抜方法についても明示している。入学者の推移を毎年集積し、データベース化している。今後も引き続き入学選抜方法の妥当性を検討、改善していく。オープンキャンパスを3年生だけでなく、1・2年生対象にも実施している。ユマフェスを定期開催し開拓に取り組んでいる。高校ガイダンスでも学校紹介や高校へ依頼があれば出張講義や遠方の方に関してはオンライン等を活用し対応を行っている。 | | | |

| 大項目 | 評価対象項目 | 小評価 | 評価 |
|---------------------|--|---|-----|
| VII 卒業・就職・進学 | 69 卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っているか。 | 3 | 3.6 |
| | 70 卒業時の到達状況を分析しているか。 | 3 | |
| | 71 卒業生の就業・進学状況・国家試験合格状況を分析しているか。 | 4 | |
| | 72 卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等が出来る体制を整えているか。 | 4 | |
| | 73 卒業生の就業先での情報を把握し、問題を明確にしているか。 | 4 | |
| | 74 卒業生の支援体制を整えているか。 | 4 | |
| | 総評 | 卒業時の到達度状況は学業成績および実習経験録により捉えて分析し、OSCEの授業にも反映させている。国家試験に関しては、毎年データ化している。学内の国家試験担当者や、外部組織を活用した対策講座を行い、補講も加えることで合格率向上に努めている。就業先との情報交換は担当者間で意見交換されている。就業先は施設からの進捗状況報告を受けたり、訪問時に様子を聞いている。卒業生の支援体制については個々で交流し成り立っているが今後は全体として一本化をし体制を統一していく。また現在卒業生のPR本を作成し、学校・関係病院をPRする活動を実施している。入学生の将来ビジョン確立にも繋げていきたい。 | |
| VIII 地域社会 / 国際交流 | 75 地域社会との連携に向けて、地域のニーズを把握しているか。 | 4 | 3.3 |
| | 76 教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っているか。 | 4 | |
| | 77 養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っているか。 | 4 | |
| | 78 国際的視野を広げるための教育内容を設定しているか。 | 4 | |
| | 79 海外からの帰国学生や留学生の受け入れ体制を整えているか。 | 2 | |
| | 80 留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えているか。 | 2 | |
| | 総評 | 地域社会との連携に向けて県内で開催される各種会議や研修を通して把握に努めている。地域に向けて学園グループ合同で高校生対象としたフェスを実施している。今後も出張授業等の教育活動を通して地域社会へ教育情報の発信に努めていく。留学生の受け入れ体制に関しては実績は無い。看護教育の中で国際的視野を広げるための教育は必要であり、外国の文献、インターネットの活用を取り入れやすい環境を整える。新カリキュラムでは地域看護学の科目を設定し、フィールド研究における施設提携・地域社会との連携を深めていく。 | |
| IX 研究 | 81 教員の研究活動を保証（時間的、財政的、環境的）にしているか。 | 3 | 3 |
| | 82 教員の研究活動を助言、検討する体制を整えているか。 | 4 | |
| | 83 研究の成果を発表しているか。 | 2 | |
| | 総評 | 教員の研究活動は保障される体制は整えられている。本年度、研究の準備はしていたがコロナ禍のため自制した。しかし、教員一人ひとりには研究に価値をおき、専門性を高めるために努めた。研究は看護学校協議会学会等で成果を発表できる体制を整えていく。今後も、新しい情報を取り込み、創意工夫した教授・学習活動を展開できるように研究的姿勢を涵養していく。 | |

| 項目 | R4 | R3 |
|------------------|-----|-----|
| I 教育理念・目的 | 3.8 | 3.8 |
| II 教育目標 | 3.5 | 3.5 |
| III 教育課程・経営 | 3.8 | 3.9 |
| IV 教授・学習・評価過程 | 3.5 | 3.6 |
| V 経営・管理過程 | 3.7 | 3.7 |
| VI 入学 | 4 | 4 |
| VII 卒業・就職・進学 | 3.6 | 3.7 |
| VIII 地域社会 / 国際交流 | 3.3 | 3.2 |
| IX 研究 | 3 | 3 |

看護学科 年度比較

